

緑の未来協力隊 隊員報告

隊員プロフィール

氏名：認定NPO法人 AMDA社会開発機構

赴任先：インドネシア共和国

出身県：-

活動分野：酪農業

活動期間：2013年2月から2016年2月

【活動概要】

日本NGO連携無償資金協力を活用し、インドネシア南スラウェシ州シンジャイ県で「酪農技術向上支援事業」を実施しています。経済発展著しいインドネシアですが、地域間の格差が大きく、対象地の平均収入は首都のジャカルタと比較し10分1程度に留まっています。2006年から同県では、零細農民の貧困軽減の一環として酪農産業が導入されましたが、酪農関係の人員・経験・技術不足などの課題を抱えていました。そこで本事業では、酪農産業分野の経験・知見・技術を有す日本人専門家(緑の未来協力隊)を派遣し、酪農関係者への技術指導や、牛乳の消費拡大・普及促進を支援することで、地域の酪農業振興と零細農家の収入向上を目指しています。

【活動の成果】

日本人専門家(緑の未来協力隊)の指導により、15名の人工授精師が育成され、彼らのインドネシア政府登録資格レベルが昇格しました(4名が見習い→初級、1名が見習い→中級、1名が中級→上級へ)。また、適切な飼育環境で乳牛を飼育する酪農家の割合が10%から53%に、適正に飼料を給餌している酪農家の割合が3%から22%に改善しました。この他、牛糞堆肥化の指導にも力を入れています。牛糞堆肥化により、酪農家の堆肥販売による収入向上だけでなく、将来的な畜産公害(糞尿の垂れ流しによる河川の汚染や、悪臭による近隣住民との軋轢など)の回避も期待されています。

【今後の予定】

地元行政(県畜産局など)や関係機関(酪農協同組合など)により、持続的に酪農産業振興が図られるよう、人工授精師指導者の育成、乳牛飼育マニュアルや飼料標準の整備など、酪農政策・業務の標準化に力を入れていく予定です。



人工授精師への指導風景



農業普及員への研修風景